二〇二二年度入学試験

国語試験問題

注意事項

一、指示があるまで開かないこと。
二、問題は十一ページである。万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
三、解答はすべて**解答用紙**（マークシート）に記入すること。
四、**解答用紙には座席番号、氏名を忘れずに記入すること。**
五、**解答用紙**の記入にあたっては、次の事項について注意すること。
・**HBの鉛筆またはマークシートペン**を使用すること。（シャープペンシルは不可）
・解答用紙に記載の「**記入上の注意**」をよく読んでから記入すること。
六、試験問題は持ち帰ること。

次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。

〝作品をあるがままに読む〟

よくそういうことを言う。一般読者だけでなくて、長年の文学修業を重ねた批評家までも本気になって、あるがままに作品を読むべきだと説く。そしてそれを別におかしいという人もあらわれないのだから不思議である。人びとは本当に〝あるがまま〟に読むことができると思っているのであろうか。もしそうだとすれば、よほど楽天的な性格の人間か、さもなければ、ひどく内省力の欠如した人間であるに違いない。

シェイクスピアは、演劇、つまり、芸術というものは「自然に向って鏡をかかげること」だと言った。もし、鏡が歪んでいなければ、自然を〝あるがまま〟に写すことができる。もっとも、右と左とが入れ替ったりすることをどう考えるかという問題もある。さらに、三次元の立体的世界を二次元の平面に投影したものは〝あるがまま〟ではないという異議はいっそう厄介である。いわゆる鏡でも決して〝あるがまま〟を写し出すことはできない。

実際に芸術という鏡はこの人間世界という自然をかなり変形し、ディフォルメして描いてみせる、そこが美しくおもしろいのである。完全に〔　イ　〕的な表現がかりにあったとしても、芸術にならない。人間的価値をもつこともないであろう。

アート(芸術)とは人間的営為によるものの意である。もし〝あるがまま〟を理想とするならば、アートは否定されなくてはならないことになる。芸術は自然をそのまま模写するから尊いのではなくて、自然に新しい秩序を与える加工を経ているからこそ美しい。

読むのも同じである。だいたい、読むのを〔　ロ　〕的なものときめてかかっているのがおかしい。芸術が完全に自然の模写、模倣ではなく、また、あってはならないのと同じく、(I)読者も作品に向って、すこしの歪みもないような鏡を向けることはできないし、また、向けてはならない。

子供の心は無垢で、あるがままをより受け容れやすいが、子供にとって理解できないものがいかに多いことか。理解とは、外

にあるものをそのままの形で受け容れることではなく、客として半ば出迎えて、しかるべき所へすえるのに近い。受け手にそれだけの用意がなければ、あるがままに読むことができないのはもちろん、そもそも何が何だかわからなくなってしまう。

作品も傍若無人(あ)にわれわれの心の中へ押し入ってくるのではない。様子をうかがい、いくらかおずおず(い)と近寄ってくる。読み初めの本が、たいていいくらか抵抗を感じさせるのも、作品と読者の出会いの緊張を反映している。

具体的な表現を好む読者に対しては、作品はなるべく〔　ハ　〕的なところを見せようとして、〔　ニ　〕的なところは抑える。つまり、できるだけ気に入られようとつとめる。それでも主人(あるじ)のお気に召さなければしかたがない。ご縁がなかったものとしてあきらめる。つき合いまで発展しない、ただの訪問に終る。

迎える主人側も、なるべくならば気もちよく客になってもらうための用意はする。しかるべく(う)準備したり部屋や調度に気を配るであろう。そうして迎えた作品であるから、相手かまわず、勝手なことをまくし(え)立てたり、粗略な扱いなどするわけがない。ときには下にもおかぬ鄭重(ていちょう)なもてなしをする。

しかし、それは、あるがままをそのまま受け容れるのとは違う。客を接待するには対話が必要になる。(Ⅱ)口をきかない主人では困る。同じ客である作品でも、迎える主人、読者が違えば、話の調子、内容とも変るのが当然である。作品の解釈が、ひとによって異なるのはそのためである。

これまで、読者は自らを作品という客を迎える主人と考えることがなかった。文学の理解においての多くの混乱が起こっているのは、読者が不当な【　X　】をしていることと無関係ではなかろう。

〝あるがまま〟に読めない、となれば、読者はめいめいのよしとする意味によって理解するほかはなくなる。われわれがわかったと思うのはそういう理解である。

外国語を知らない人にとって、その意味をとるには翻訳を必要とする。翻訳とは自国語で外国語の意味を〔　ホ　〕的にとらえようとする作業である。〝原文忠実〟などと言うけれども、翻訳に〝あるがままの翻訳〟というものはない。かならず、もとの表現との間にずれを生じている。原文を完全に再現することを求めるならば、翻訳は理論上は不可能になってしまう。これまでもそ

ういう不可能説がおりにふれて提出されてきた。ところが、実際はさかんに翻訳が行われている。完全に忠実な再現でないからといって、それを禁ずることはもちろんできない。そういういわゆる翻訳をわれわれは何か特別と見なしがちである。(Ⅲ)多くの人は、ときに翻訳を手にすることがあっても、自分では翻訳の作業そのものとは無関係な生活をしていると思っている。はたしてそうであろうか。案外、目に見えない翻訳はたえずしているのかもしれない。

（外山滋比古『異本論』による）

問一　波線部(あ)～(え)の意味としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

(あ)　1　尊大に他者を見下すさま　2　自分勝手にふるまうさま　3　強引で押しが強いさま

(い)　1　おそるおそる行うさま　2　静かにゆっくり行うさま　3　慎み深く遠慮がちなさま

(う)　1　入念に　2　真剣に　3　相応に

(え)　1　あたりかまわず大声を張り上げる　2　我を忘れて前後の脈絡なく話す　3　勢いよく続けざまにしゃべる

問二　〔　イ　〕～〔　ホ　〕に入る語を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　近似値　2　客観　3　思弁　4　受動　5　即物　6　模倣

問三　傍線部(Ⅰ)の理由としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　作品を読むことは創造的な営為だから。

2　読者の勝手な思い込みを排除できないから。

3　読者にかなりの力量が必要とされるから。

4　作品の本当の価値を理解できないから。

問四　傍線部(Ⅱ)の説明としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　作品を手にしてもまるで読もうとしない読者
2　自分から主体的に作品を読もうとしない読者
3　好意的な気持ちで作品を読もうとしない読者
4　作品の内容をそのままでは受け入れない読者

問五　【　X　】に入る語を、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　自己犠牲　　2　自己完結　　3　自己否定　　4　自己陶酔

問六　傍線部(Ⅲ)の理由としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　いつも作品を自分なりに解釈して読んでいることに気付いていないから。
2　自分には外国語の作品を翻訳する機会があるとは思ってもいないから。
3　日本語の作品と外国語を翻訳した作品が同じだと感じていないから。
4　原文に忠実な翻訳であるかどうか、自分では判断できないから。

問七　問題文の内容と一致しているものを、次の中から二つ選んで、番号をマークしなさい。

1　子供が無垢なのは、進んで世界に関わるための知識や経験が乏しいからである。

2　芸術作品において、自然を〝あるがまま〟に写し出すことは、本来はありえない。

3　読者が〝あるがまま〟に読もうとすると、作品の解釈がばらつく。

4　「自然に向って鏡をかかげる」とは、自然を〝あるがまま〟に写すことではない。

5　趣味の読書であれば、読者は作品を自分勝手に読むことが許される。

二　次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。

新しい病が、世界を揺るがしている。日々増える患者数に、私たちは不安を禁じ得ないが、「彼を知り己を知れば百戦殆(あや)うからず」の基本に立ち返り、［　A　］的に考えてみたい。

［　a　］、「彼」は何者か。起源は、まだはっきりしない。だが、なんらかの動物からやってきたとされる。コロナウイルスの仲間は昔から、さまざまな哺乳類や鳥類に、それぞれ「お気に入りの居場所」を確保してきた。人類に「風邪」と呼ばれるありふれた病気を起こしてきた連中の一部も、そこに含まれている。

［　b　］、「生命」の定義にもよるが、ウイルスは生き物とはいえない。なぜなら、自力で生きていくための「細胞」を持たないからだ。そのためウイルスは、常に他の「一人前の生き物」に、どっぷり頼って暮らす。たとえば、風邪のコロナウイルスは、上気道、つまり鼻から喉までの、粘膜が古くからの住処(すみか)だ。

［　c　］、ウイルスの立場から考えれば、居場所を提供してくれる宿主にダメージを与え過ぎるのは、愚かな選択だ。宿主が適度に元気で、次の宿主のところまで自分を連れて行ってくれるのが、望ましい。殺してしまうなど、《　Ⅰ　》である。

［　d　］それは、「馴染みの相手」であることが条件だ。新型コロナウイルスも、そういう「良い関係」の動物が存在していたはずだ。だがなぜか、これまで縁のなかった「人類」にとりついてしまった。勝手の分からない相手に対しては、暴力性を発揮してしまうこともある。具体的には、新型コロナは、呼吸器系の比較的奥の細胞にとりつくことがあるらしい。これが重篤な肺炎をもたらしているとも考えられる。

では今後、どうなっていくのか。一般にウイルスは、遺伝子を変えながら、できるだけ宿主に「優しい」方向に進化していく。そういう性質を獲得した株(系統)の方が、より多くのコピー(子孫)を作り出すことができるからだ。重い肺炎を起こすよりも、三日だけ鼻水が出る、くらいの方がウイルスにとっても都合がよい。現段階では、このウイルスを完全に制圧しようと各国が奮闘中だ。当然、まだ諦めるべきではない。だが、もしそれができなかったとしても、ウイルスは将来、人類と「《　Ⅱ　》」を保て

るように進化し、また人類の側も徐々に免疫を獲得して、一般的な風邪の病原体の一つに落ち着く可能性もあるだろう。

考えるべきは、そういう段階になるまでの間に、このウイルスが私たちに及ぼす悪影響を、どうしたら最小化できるか、である。ここからは、「《　Ⅲ　》」ことも大事になる。

まず確認しておくべきは、疫病との闘いは常に、リスクや利益のトレードオフ(交換取引)になる、という点だ。

たとえば、熱が出れば、解熱剤を使うのが当たり前になっている。だが、体温が上がるのは免疫力を高めるための自然な反応だ。実際、解熱剤を使わない方が、風邪の治りが早かったという研究報告もある。しかし、ならば解熱剤を全く飲まなければよいかといえば、必ずしもそうではない。高熱は体力を消耗し治癒力を弱める効果もある。要するに程度問題、バランスが重要であり、名医はその見定めが上手なのだ。

このような、さまざまな価値やリスクの比較・交換に注目すべきであることは、公衆衛生的な対策のシーンでも、［　B　］的には同じである。極論すれば、全ての社会活動を停止し、人の動きを止めれば、ウイルスは次の宿主が得られず、自然消滅するだろう。だがそれは、私たちの社会システムが「窒息」することでもある。そうなれば［　C　］的に、感染症以外の原因で犠牲者が出ることもありうる。さまざまな条件を比較考量し、適切な選択肢を随時見つけていくことが、あるべき対策なのだ。

もちろん、その判断が難しいこともあるが、たとえば感染制御学という分野の専門家は、その道のプロである。クルーズ船への政府の対応に批判が集まっているが、大切なのは、そのような専門知を適切かつ迅速に、ポリシーに反映させる仕組みだ。

その点で、米国の疫病対策センターのような、強力な組織を持たない日本は、今回のような事態に対して脆弱(ぜいじゃく)と言わざるを得ない。二〇〇九年には新型インフルエンザの流行もあり、必要性の認識はあったはずだが、実現されていない。これを機に、必ず具体化すべきだ。

いずれにせよ最も重要なのは、患者が同時に集中発生して、医療資源を超過するような事態を避けること、そして私たち一人一人が「弱者」の視点に立って考えることである。

二〇二〇年二月現在のデータでは、患者の八割は軽症だが、五％程度が呼吸不全などで重体となっているという。

もし、「熱があっても休めないあなた」が、解熱剤を飲んで活動し、ウイルスを拡散させてしまうと、とりわけ、重症化しやすい高齢者や基礎疾患のある人の命を、結果的に危険に晒すことになる。

そもそも体調が悪いのに無理して働く人、働かせる人が、この国には多すぎる。現実には、大抵の仕事は「代役」でもこなせる。だからこそ、世の中はなんとか回っている。

同時に、休んでも不利益にならないよう、労働者を守るルールを徹底させることも大切だ。これを契機に、立場の弱い者への理不尽な要求や、陰湿な同調圧力を、この社会から無くそうではないか。テレワークにも注目が集まっているが、どんどん活用すべきだ。「《 Ⅳ 》」となればよいのだが。

難局を、 D 的に乗り切りたい。

（神里達博『リスクの正体』による）

承諾番号：22-1462
朝日新聞社に無断で転載、コピー、拡散することを禁じる。

問一 A ～ D に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。

A　1 思弁　2 科学　3 大局

B　1 理想　2 本質　3 便宜

C　1 結果　2 究極　3 論理

D　1 理性　2 協力　3 科学

問二 〔 a 〕～〔 d 〕に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1 しかし　2 したがって　3 そもそも　4 まず

問三　《　Ⅰ　》に入る表現を、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　虻蜂取らず　　2　骨折り損　　3　愚の骨頂　　4　主客転倒

問四　《　Ⅱ　》に入る表現を、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　そこそこの関係　　2　似たり寄ったりの関係

3　良きライバルの関係　　4　相思相愛の関係

問五　《　Ⅲ　》に入る表現を、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　闘い方を知る　　2　己を知る　　3　可能性を知る　　4　身体を知る

問六　《　Ⅳ　》に入る表現を、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　漁夫の利　　2　二階から目薬　　3　棚から牡丹餅　　4　禍を転じて福

問七　次のA～Dの内容について、問題文の趣旨と一致していれば1を、一致していなければ2を、それぞれマークしなさい。

A　新型コロナウイルスも、ありふれた病気とみなすべきである。

B　ウイルス感染防止を、社会活動維持より優先するべきである。

C　高熱に解熱剤を使うか否かは、一律に判断するべきではない。

D　自分の代りはいると思い、無理してまで働くべきではない。

問八　問題文は『リスクの正体』という本に収録されているが、この問題文で取り上げられた「リスクの正体」としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。

1　次々と新たなウイルスが人間に感染し流行していること
2　ウイルス対策と人間生活の維持が両立できていないこと
3　感染流行を防止する医療体制が不十分なままであること
4　ウイルスに対する人間の危機意識ばかりが先行すること

三　次のA～Eの四字熟語を構成する㋐～㋚に入る漢字を、それぞれ後の選択肢の中から選んで、番号をマークしなさい。

A　㋐㋑必罰

B　温㋒知㋓

C　五㋔㋕中

D　㋖顔無㋗

E　千㋘一㋙

㋐
1 信
2 真
3 心

㋑
1 証
2 象
3 賞

㋒
1 古
2 誇
3 故

㋓
1 身
2 新
3 親

㋔
1 里
2 利
3 離

㋕
1 霧
2 無
3 夢

㋖
1 高
2 厚
3 鋼

㋗
1 恥
2 知
3 痴

㋘
1 載
2 際
3 災

㋙
1 偶
2 遇
3 隅